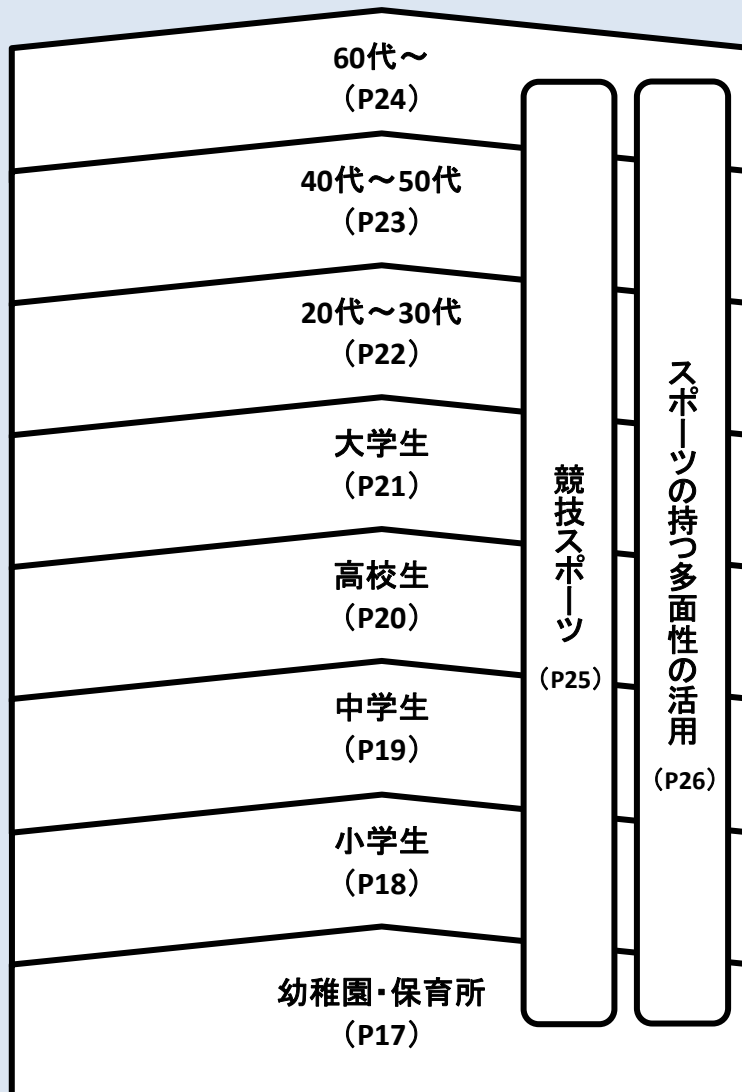


各ライフステージごとの 「10年後の理想像」と「理想像とのギャップ」(案)

資料の構成



「10年後の理想像」と「理想像とのギャップ」



幼稚園・保育園

(10年後の理想像)

(理想像とのギャップ)

人	<p>運動遊びなどを通じて、体を使った遊びが好きな子どもたちが増え、運動遊びが楽しいものと体で感じることが出来ている。</p>	<p>少子化や都市化などの影響により、子どもにとって遊ぶ場所、遊ぶ仲間、遊ぶ時間が少なくなっていることや、交通事故や不審者等への懸念から、外で体を動かして遊ぶ機会が少なくなっているため、体を使った遊びが楽しいものと実感できる機会が十分とはいえない。</p>
	<p>障がいの有無にかかわらず、子どもたちが一緒に運動遊びを楽しんでいる。</p>	<p>障がいのある子どもとない子どもが同じ運動遊びを行うことの利点等が十分認識されておらず、運動環境の更なる整備が必要である。</p>

取り巻く環境	<p>幼児期からの運動遊びに関する取組が県内各地で活発になっている。</p>	<p>幼稚園・保育園や学校では長野県版運動プログラムの普及は進んでいるが、家庭や地域などへの普及を更に進め、効果的なプログラムにする必要がある。</p>
	<p>子どもたちが安全に遊べる場所が身近にあり、外で楽しく遊ぶことができる環境が整っている。</p>	<p>子どもたちが気軽に遊べる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。</p>
	<p>親子で参加できるスポーツイベントなど、親子で楽しめる運動遊びの機会が充実し、スポーツを通じて親子の絆が深まっている。</p>	<p>親子で参加できるスポーツイベントは増えているが、興味を引く内容にしたり参加しやすい時間帯に開催するなど、参加者を増やす工夫をする余地はある。</p>

「10年後の理想像」と「理想像とのギャップ」



小学生

(10年後の理想像)

(理想像とのギャップ)

人	運動が好きな子どもたちが増え、休み時間や放課後に校庭や公園などで遊ぶ子どもたちが増えている。
	体育学習を通じて、運動を楽しむ資質や能力を高め、運動をする楽しみや喜びを実感している。
	地域のスポーツ活動やスポーツ少年団の活動に積極的に参加している。
	障がいのある子どもたちが、個々の障がいに応じた適切な運動指導が受けられている。
	障がいの有無にかかわらず、子どもたちが一緒に運動遊びを楽しんでいる。
地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、みるスポーツの楽しさを実感している。	

H28年度の体力合計点をみると、小5男子は全国平均を上回るが、小5女子は全国平均を下回る。
スポーツ少年団の数や指導者の数が減少傾向にある。 (団数:H23, 596団体⇒H27, 565団体) 【長野県体育協会調】
障がいのある子どもへの安全なスポーツ指導法や障がい特性を理解した指導者が不足している。
障がいのある子どもとない子どもが同じ運動遊びを行うことの利点等が十分認識されておらず、運動環境の更なる整備が必要である。
実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人は12.5%と低い。 (TV等により日常的にスポーツ中継、スポーツ情報に接している人の割合は43%) 【H27長野県県政モニターアンケート調査】

取り巻く環境	学校や地域でスポーツイベントが活発に開催され、様々な場面でスポーツを楽しむことができる環境が充実している。
	全国や国際舞台で活躍する可能性のある選手を発掘する体制が整備されている。
	地域や学校で子どもたちが体を動かして遊ぶ場所が整備されている。
プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催されている。	

スポーツイベントは数多く開催されているが、内容の充実等更なる改善の余地がある。
ジュニア期からのタレント発掘事業は一部競技に留まっている。
気軽にスポーツができる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。
人気スポーツの大会や大規模大会等の開催が求められている。

「10年後の理想像」と「理想像とのギャップ」



中学生

(10年後の理想像)

(理想像とのギャップ)

人	生徒一人一人が体育学習を通じて、運動に関する知識や技能を身に付け、運動をする楽しさや喜びを実感している。	中学生女子は、「運動が好き・やや好き」と答える子どもが全国平均より低い。
	トップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室などを通じて、トップスポーツへ夢や憧れを抱いている。また、トップアスリートの指導を受けることで競技力が向上している。	トップアスリートを活用したスポーツイベントやスポーツ教室などが十分開催されているとは言えない。
	中学校の運動部活動が適切に行われ、部活動を通じてスポーツの楽しさや喜びを味わい、より豊かな学校生活を送ることが出来ている。	運動部活動に加入していない生徒に対して、スポーツの楽しさや喜びを感じさせる方策が不足している。
	障がいのある子どもたちが、個々の障がいに応じた適切な運動指導が受けられている。	障がいのある子どもへの安全なスポーツ指導法や障がい特性を理解した指導者が不足している。
	障がいのある子どもとない子どもがスポーツを通じて一緒に楽しんでいる。	障がいのある子どもとない子どもが同じ運動遊びを行うことの利点等が十分認識されておらず、運動環境の更なる整備が必要である。
	地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、みるスポーツの楽しさを実感している。	実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人は12.5%と低い。

取り巻く環境	学校や地域でスポーツイベントが活発に開催され、様々な場面でスポーツを楽しむことができる環境が充実している。	スポーツイベントは数多く開催されているが、内容の充実等更なる改善の余地がある。
	全国や国際舞台で活躍する可能性のある選手を発掘する体制が整備されている。	ジュニア期からのタレント発掘事業は一部競技に留まっている。
	地域や学校で子どもたちが体を動かして遊ぶ場所が整備されている。	気軽にスポーツができる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。
	プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催されている。	人気スポーツの大会や大規模大会等の開催が求められている。

「10年後の理想像」と「理想像とのギャップ」



高校生

(10年後の理想像)

余暇時間等を利用し、自ら様々なスポーツに挑戦し、スポーツを楽しむ能力・習慣が身についている。

運動部活動や地域のスポーツなどに積極的に参加し、スポーツの楽しみや喜びを実感するとともに、全国大会や国際大会で活躍し、県民に夢や希望、感動を与えている。

障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会などが積極的に開催されている。

地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、みるスポーツの楽しさを実感している。

(理想像とのギャップ)

余暇はスマートフォンなどのネット利用に多くの時間を充てられており、運動・スポーツをする習慣が身についているとは言い難い。

H28年度の国体では、少年種別の獲得得点は37位(H26は47位(最下位))であり、少年の競技力の低迷が課題である。また、少年の競技力低下は、将来の成年種別の競技力の低下にもつながる。

障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会の開催が十分ではない。

実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人は12.5%と低い。

人

学校や地域でスポーツイベントが活発に開催され、様々な場面でスポーツを楽しむことができる環境が充実している。

全国や国際舞台で活躍する可能性のある選手を発掘する体制が整備されている。

仲間同士で気軽に楽しめるスポーツ施設が地域に整備されている。

プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催されている。

スポーツイベントは数多く開催されているが、内容の充実等更なる改善の余地がある。

ジュニア期からのタレント発掘事業は一部競技に留まっている。

気軽にスポーツができる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。

人気スポーツの大会や大規模大会等の開催が求められている。

取り巻く環境

「10年後の理想像」と「理想像とのギャップ」



大学生

(10年後の理想像)

(理想像とのギャップ)

人	<p>余暇活動として仲間とスポーツを楽しんだり、積極的にスポーツイベントに参加するなど、スポーツをする習慣が身に付き、充実したスポーツライフを送っている。</p>	<p>余暇はスマートフォンなどのネット利用に多くの時間を充てられており、運動・スポーツをする習慣が身につけているとは言い難く、本県における週1回以上スポーツに親しむ成人の割合(運動・スポーツ実施率)は、H26、H27と2年連続で下降し現状45.1%と50%を下回っている。(H27 20代:43.3%) 【H27 長野県県政モニターアンケート調査】</p>
	<p>競技スポーツに取り組む学生が、練習設備や支援体制の整った環境の中で、練習に取り組むことができ、最先端の医科学サポートや、より専門的な指導を受けることで競技力がさらに向上し、全国大会や国際大会で活躍している。</p>	<p>国民体育大会や全国規模の大会等で活躍が一部の種目・選手に偏っており、県全体の競技レベルの向上が必要となっている。また、傷害予防やトレーニング効果を高めるためにスポーツ医科学面からの支援が求められている。</p>
	<p>地域のスポーツに積極的に参加し、総合型地域スポーツクラブなどでスポーツを楽しんだり、またスポーツボランティアとして地域のスポーツを盛り上げる原動力となっている。</p>	<p>総合型地域スポーツクラブの加入者数は微増となっている。また、スポーツボランティアの認知度が低い。</p>
	<p>地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、みるスポーツの楽しさを実感している。また、スポーツボランティアとして大会開催や運営に協力し、地域のスポーツ振興に貢献している。</p>	<p>実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人の割合12.5%と低い。また、スポーツボランティア等に関わっている人の割合は8.9%と低い。</p>
取り巻く環境	<p>仲間同士で気軽に楽しめるスポーツ施設が地域に整備されている。</p>	<p>気軽にスポーツができる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。</p>
	<p>気軽に参加できるスポーツイベントなどが地域で開催され、スポーツに親しむ機会が充実している。</p>	<p>スポーツイベントは数多く開催されているが、内容の充実等更なる改善の余地がある。</p>
	<p>アスリートが競技引退後も活躍する場があり、自身のセカンドキャリアに希望が持てる環境が整備されている。</p>	<p>国体で活躍する実力のある本県出身の有力選手が、大学卒業後も競技生活を続ける場合に、多くの選手が県外へ就職している。また、県内で就職を希望するアスリートが存在することや採用に関する認識が県内企業に不足していることや、現役引退後のセカンドキャリアに向けた計画的準備及び周囲の支援が不足している。</p>
	<p>プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催されている。</p>	<p>人気スポーツの大会や大規模大会等の開催が求められている。</p>

「10年後の理想像」と「理想像とのギャップ」

20代～30代

(10年後の理想像)

(理想像とのギャップ)

人	<p>育児や仕事の合間や休日等の余暇を有効に使い、家族や仲間とスポーツ活動を楽しみ、心身の健康を保っている。</p>	<p>本県における週1回以上スポーツに親しむ成人の割合(運動・スポーツ実施率)は、H26、H27と2年連続で下降し現状45.1%と50%を下回っている。特に30代から40代にかけては30%以下と低くなっている。(H27 20代:43.3%, 30代:29.4%) 【H27 長野県県政モニターアンケート調査】 運動・スポーツを行わなかった理由としては、20代及び30代とも「仕事(家事・育児含む)が忙しくて時間がないから」が最も高く、20代で66.7%、30代で87.5%である。 【内閣府調:H27東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査】</p>
	<p>社会人競技者として地域や企業に支えられながら、夢に向かって競技を続けている。また、競技引退後には、トップアスリートの経験や技術を活用する仕組みができています。</p>	<p>トップアスリートを活用したスポーツイベントやスポーツ教室などが十分開催されているとは言えない。</p>
	<p>地域のスポーツに積極的に参加し、総合型地域スポーツクラブなどでスポーツを楽しんだり、またスポーツボランティアとして地域のスポーツを盛り上げる原動力となっている。</p>	<p>総合型地域スポーツクラブの加入者数は微増となっている。また、スポーツボランティアの認知度が低い。</p>
	<p>障がいの程度に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。</p>	<p>障がい者の数は増えているが、スポーツを行っている者の数は減少傾向にある。</p>
	<p>地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、みるスポーツの楽しさを実感している。また、スポーツボランティアとして大会開催や運営に協力し、地域のスポーツ振興に貢献している。</p>	<p>実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人の割合12.5%と低い。また、スポーツボランティア等に関わっている人の割合は8.9%と低い。 【H27 長野県県政モニターアンケート調査】</p>
取り巻く環境	<p>総合型地域スポーツクラブなどへの参加が増え、地域のスポーツを支える人材や指導者候補者が地域で育っている。</p>	<p>総合型地域スポーツクラブの加入者数は微増となっている。</p>
	<p>アスリートが競技引退後も活躍する場があり、自身のセカンドキャリアに希望が持てる環境が整備されている。</p>	<p>県内で就職を希望するアスリートが存在することや採用に関する認識が県内企業に不足していることや、現役引退後のセカンドキャリアに向けた計画的準備及び周囲の支援が不足している。</p>
	<p>親子で参加できるスポーツイベントなど、親子でスポーツを楽しめる機会が充実し、スポーツを通じて親子の絆が深まっている。</p>	<p>親子で参加できるスポーツイベントは増えているが、興味を引く内容にしたり参加しやすい時間帯に開催するなど、参加者を増やす工夫をする余地はある。</p>
	<p>仲間同士で気軽に楽しめるスポーツ施設が地域に整備されている。</p>	<p>気軽にスポーツができる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。</p>
	<p>プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催されている。</p>	<p>人気スポーツの大会や大規模大会等の開催が求められている。</p>

「10年後の理想像」と「理想像とのギャップ」



40代～50代

(10年後の理想像)

(理想像とのギャップ)

人	仕事などの合間にできる手軽な運動を日常生活に取り入れ、体力や健康を維持している。
	地域のスポーツに積極的に参加し、総合型地域スポーツクラブなどでスポーツを楽しんだり、またスポーツボランティアとして地域のスポーツを盛り上げる原動力となっている。
	障がい者スポーツ経験者が指導者として地域で活躍し、地域スポーツイベントなどを通じて、障がいへの理解が深まり、障がい者が地域でともに暮らす意識が醸成されている。
	地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、みるスポーツの楽しさを実感している。また、スポーツボランティアとして大会開催や運営に協力し、地域のスポーツ振興に貢献している。

本県における週1回以上スポーツに親しむ成人の割合(運動・スポーツ実施率)は、H26、H27と2年連続で下降し現状45.1%と50%を下回っている。特に30代から40代にかけては30%以下と低くなっている。(H27 40代:29.8%, 50代:42.5%) 【H27 長野県県政モニターアンケート調査】 運動・スポーツを行わなかった理由としては40代及び50代とも「仕事(家事・育児含む)が忙しくて時間がないから」が最も高く、40代で70.6%、50代で64.9%である。 【内閣府調:H27東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査】
総合型地域スポーツクラブの加入者数は微増となっている。また、スポーツボランティアの認知度が低い。
競技の指導技術と障がい理解を併せ持つ指導者が不足している。
実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人の割合12.5%と低い。また、スポーツボランティア等に関わっている人の割合は8.9%と低い。

取り巻く環境	総合型地域スポーツクラブなどへの参加が増え、地域のスポーツを支える人材や指導者候補者が地域で育っている。
	気軽に参加できるスポーツイベントなどが地域で開催され、スポーツに親しむ機会が充実している。
	仲間同士で気軽に楽しめるスポーツ施設が地域に整備されている。
	プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催されている。

総合型地域スポーツクラブの加入者数は微増となっている。
スポーツイベントは数多く開催されているが、内容の充実等更なる改善の余地がある。
気軽にスポーツができる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。
人気スポーツの大会や大規模大会等の開催が求められている。

「10年後の理想像」と「理想像とのギャップ」



60代～

(10年後の理想像)

(理想像とのギャップ)

人	<p>年齢や体力に応じて、適切なスポーツ活動を継続することで余暇の充実と健康の増進を図っている。</p>
	<p>一人でも手軽にできる運動が地域や家庭で浸透し、日常生活の中に取り入れることで、生活習慣病などを予防し、健康を維持しています。</p>
	<p>地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、みるスポーツの楽しさを実感している。また、スポーツボランティアとして大会開催や運営に協力し、地域のスポーツ振興に貢献している。</p>

<p>本県における週1回以上スポーツに親しむ成人の割合(運動・スポーツ実施率)は、H26、H27と2年連続で下降し現状45.1%と50%を下回っている。60代以上については50%を上回り、成人の中でもっとも運動・スポーツ実施率が高い。(H27 60代:57.0% 70代以上:58.0%)</p> <p>【H27 長野県県政モニターアンケート調査】</p> <p>運動・スポーツを行わなかった理由としては、60代では「仕事(家事・育児含む)が忙しくて時間がないから」が最も高く、45.1%で70代以上では「年をとったから」が59.9%で最も高い。</p> <p>【内閣府調:H27東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査】</p>
<p>運動不足が一因となり生活習慣病になる高齢者が多い。</p>
<p>実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人の割合12.5%と低い。また、スポーツボランティア等に関わっている人の割合は8.9%と低い。</p> <p>【H27 長野県県政モニターアンケート調査】</p>

取り巻く環境	<p>年齢や体力に応じて楽しむことのできるスポーツの選択肢があり、実践するための機会や指導者が地域で確保されている。</p>
	<p>仲間同士で気軽に楽しめるスポーツ施設が地域に整備されている。</p>
	<p>気軽に参加できるスポーツイベントなどが地域で開催され、スポーツに親しむ機会が充実している。</p>
	<p>プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催されている。</p>

<p>年齢や体力に応じたスポーツを指導することができる指導者が不足している。</p>
<p>気軽にスポーツができる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。</p>
<p>スポーツイベントは数多く開催されているが、内容の充実等更なる改善の余地がある。</p>
<p>人気スポーツの大会や大規模大会等の開催が求められている。</p>

「10年後の理想像」と「理想像とのギャップ」



競技スポーツ

(10年後の理想像)

(理想像とのギャップ)

人	<p>トップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室などを通じて、トップスポーツへ夢や憧れを抱いている。また、トップアスリートの指導を受けることで競技力が向上している。【中学生】 (再)</p>	<p>トップアスリートを活用したスポーツイベントやスポーツ教室などが十分開催されているとは言えない。</p>
	<p>運動部活動や地域のスポーツなどに積極的に参加し、スポーツの楽しみや喜びを実感するとともに、全国大会や国際大会で活躍し、県民に夢や希望、感動を与えている。【高校生】 (再)</p>	<p>H28年度の国体では、少年種別の獲得得点は37位(H26は47位(最下位))であり、少年の競技力の低迷が課題である。また、少年の競技力低下は、将来の成年種別の競技力の低下にもつながる。</p>
	<p>競技スポーツに取り組む学生が、練習設備や支援体制の整った環境の中で、練習に取り組むことができ、最先端の医科学サポートや、より専門的な指導を受けることで競技力がさらに向上し、全国大会や国際大会で活躍している。【大学生】 (再)</p>	<p>国民体育大会や全国規模の大会等で活躍が一部の種目・選手に偏っており、県全体の競技レベルの向上が必要となっている。また、傷害予防やトレーニング効果を高めるためにスポーツ医科学面からの支援が求められている。</p>
	<p>社会人競技者として地域や企業に支えられながら、夢に向かって競技を続けている。また、競技引退後には、トップアスリートの経験や技術を活用する仕組みができている。【20~30代】 (再)</p>	<p>トップアスリートを活用したスポーツイベントやスポーツ教室などが十分開催されているとは言えない。</p>
取り巻く環境	<p>全国や国際舞台で活躍する可能性のある選手を発掘する体制が整備されている。【小学生・中学生・高校生】 (再)</p>	<p>ジュニア期からのタレント発掘事業は一部競技に留まっている。</p>
	<p>ICTや最先端スポーツ医・科学を利用したトレーニングが一般競技団体間に普及し、より効果的・効率的な選手育成が図られている。</p>	<p>一部ではスポーツ医・科学に基づく実技講習等を実施する動きはみられるが、更なる普及が必要である。</p>
	<p>異種競技間の交流や合同トレーニングの機会が増え、異種スポーツの知識や技術の活用、選手のトランスファーのきっかけになっている。</p>	<p>一部競技(陸上競技等)では種目間でのトランスファーは図られているが、異種競技間での動きはあまり見られない。</p>
	<p>企業等がアスリートの競技継続に対する理解が深まり、アスリートの正社員採用が普及することで、競技と仕事をバランスよく両立できる環境が整っている。</p>	<p>企業のアスリートの就職に関する理解や認識が広まっておらず、受け入れ体制が不十分である。</p>

※ (再) は各ライフステージからの再掲

「10年後の理想像」と「理想像とのギャップ」



スポーツの持つ多面性の活用

(10年後の理想像)

(理想像とのギャップ)

人	地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、みるスポーツの楽しさを実感している。【小学生・中学生・高校生】 (再)	実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人は12.5%と低い。
	地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、みるスポーツの楽しさを実感している。また、スポーツボランティアとして大会開催や運営に協力し、地域のスポーツ振興に貢献している。【大学生・20～30代・40～50代・60代～】 (再)	実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人の割合12.5%と低い。また、スポーツボランティア等に関わっている人の割合は8.9%と低い。
取り巻く環境	親子で参加できるスポーツイベントなど、親子でスポーツを楽しめる機会が充実し、スポーツを通じて親子の絆が深まっている。【幼・保・20～30代】 (再)	幼稚園・保育園や学校では長野県版運動プログラムの普及は進んでいるが、家庭や地域などへの普及を更に進め、効果的なプログラムにする必要がある。
	学校や地域でスポーツイベントが活発に開催され、様々な場面でスポーツを楽しむことができる環境が充実している。【小学生・中学生・高校生】 (再)	気軽にスポーツができる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。
	気軽に参加できるスポーツイベントなどが地域で開催され、スポーツに親しむ機会が充実している。【大学生・40～50代・60代～】 (再)	スポーツイベントは数多く開催されているが、内容の充実等更なる改善の余地がある。
	プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催されている。【小学生・中学生・高校生・大学生・20～30代・40～50代・60代～】 (再)	人気スポーツの大会や大規模大会等の開催が求められている。
	スポーツ大会やスポーツイベントを通じて、県内外・国内外関わらず様々な地域間の交流が盛んになっている。	スポーツイベントは数多く開催されているが、内容の充実等更なる改善の余地がある。
	山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために日本全国・世界各地から観光客が訪れている。	外国人観光客が安全にスポーツを楽しめるため配慮や更なる環境整備が必要である。
	長野県スポーツコミッションが核となり、スポーツを通じた誘客による地域経済の活性化が図られている。	平成28年に長野県スポーツコミッションが設立され、スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致等の推進による、地域地域経済の活性化が求められている。
	障がいのある人とない人が同様に楽しめるスポーツやスポーツイベントが普及し、同じ場所・時間で競い、楽しむ環境や機会が充実している。	障がいの有無にかかわらず、誰でも楽しめるようなスポーツの認知度は低く、また、そうしたスポーツの指導者が少ない。

※ (再) は各ライフステージからの再掲